

メイショウトウコン



2002年4月7日生 牡 黒鹿毛
父:マヤノトップガン
母:ルナースフィア(母の父:ジェイドロバリー)
新冠・新冠橋本牧場生産
調教師:安田伊佐夫(栗東)→武田博(栗東)
馬主:松本好雄氏

同期に阻まれ続けた栄光の座

ダートの大レースでたびたび豪快な追い込みを見せたメイショウトウコン。その視線の先には常に「あの馬さえ交わせれば」というターゲットがいた。その名はヴァーミリアン。

メイショウトウコンと同じ2002年4月生まれ、芝からダートへの路線変更を機に大出世した経緯も同じ。生涯にGI/JpnIで計9勝をあげる“砂の絶対王者”である。

初勝利までに13戦を要し、その後の5戦も3着が精いっぱい。芝のレースを使われていた当時のメイショウトウコンは、一介の条件馬にすぎなかった。だが4歳の夏、ダートに活路を見出すやたちまち頭角を現す。500万下の6馬身差圧勝を皮切りに、瞬く間にオープン入りを果たすと、5歳初戦の平安ステークスで重賞初挑戦初制覇。さらに東海ステークスとエルムステークスのタイトルを積み上げたメイショウトウコンは、すっかりダート戦線の主力として認識されるようになっていくのである。

ここから打倒ヴァーミリアンを目指す戦いが始まった。だが、壁はあまりに高く、そして分厚かった。2007年ジャパンカップダートはヴァーミリアンが勝ち、メイショウトウコンは1秒差4着。東京大賞典でもヴァーミリアンが独走を決め、メイショウトウコンは1秒7差3着。翌2008年フェブラリーステークスもヴァーミリアンが完勝、メイショウトウコンは8着に終わる。

それでもメイショウトウコンは屈することなく、名古屋大賞典とブリーダーズゴールドカップを勝って地力アップを果たすと、秋には王者との差を劇的に詰めることに成功した。JBCクラシックはヴァーミリアンとコンマ2秒差の3着と健闘。ジャパンカップダートではついに逆転、ヴァーミリアンにクビ差競り勝つのだ。惜しむらくは、屈腱炎から鮮やかな復活勝利を飾った同期のカネヒキリが、アタマ差前方にいたことだった。

思えばこれが、最大にして最後のチャンスだった。2009年JBCクラシックでは同レース3連覇を達成したヴァーミリアンから1秒8遅れの4着。ジャパンカップダートではヴァーミリアンに先着するも、これは7着と8着の争い、ともにエスポワールシチーの後塵を拝している。

結局メイショウトウコンは重賞5勝をあげたものの、同い年のライバルを降しての栄冠獲得には至らぬまま、競走生活を終えるのである。

2008年★第9回ジャパンカップダート(GI)
2002年生まれ3頭の争いとなったゴール前。ヴァーミリアンには先着を果たしたメイショウトウコン(帽色・赤)だったが、カネヒキリ(帽色・黄)を捉えることはできなかった。



2007年★第24回東海テレビ杯東海S(GII) 4歳の夏から充実一途のメイショウトウコン(帽色・白)が豪快に差し切り、重賞2勝目をあげた。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
2004.12.12	中京	2歳新馬	芝1800	3	1:51.1	安田康彦
12.26	中京	2歳未勝利	芝1200	12	1:10.9	安田康彦
2005.1.29	小倉	3歳未勝利	芝1800	3	1:49.7	安田康彦
2.20	京都	3歳未勝利	芝2000	2	2:05.4	安田康彦
3.6	中京	3歳未勝利	芝1800	7	1:50.8	安田康彦
4.10	阪神	3歳未勝利	芝2200	2	2:15.6	安田康彦
5.21	中京	3歳未勝利	芝2000	4	2:02.5	安田康彦
6.18	阪神	3歳未勝利	芝2200	8	2:15.8	安田康彦
7.9	阪神	3歳未勝利	芝2200	4	2:16.2	安田康彦
7.31	小倉	3歳未勝利	芝1800	3	1:50.3	安田康彦
9.4	札幌	3歳未勝利	芝2000	2	2:04.1	安田康彦
9.19	札幌	3歳未勝利	芝1800	4	1:51.8	安田康彦
10.2	札幌	3歳未勝利	芝2000	1	2:06.9	安田康彦
12.3	中京	揖斐川特別	芝2500	8	2:38.4	安田康彦
2006.3.11	中京	美濃特別	芝1800	5	1:49.9	川田将雅
4.16	福島	米沢特別	芝1800	5	1:51.5	松田大作
4.29	京都	4歳以上500万円以下	芝1800	3	1:47.9	武幸四郎
5.21	中京	4歳以上500万円以下	芝2000	8	2:01.4	秋山真一郎
8.12	札幌	3歳以上500万円以下	ダ1700	1	1:46.1	武幸四郎
8.26	札幌	報知杯大雪H	ダ1700	2	1:45.5	武幸四郎
9.16	札幌	アカシヤ特別	ダ1700	1	1:44.6	武幸四郎
11.11	京都	花園S	ダ1800	1	1:49.2	武幸四郎
2007.1.21	京都	平安S(GIII)	ダ1800	1	1:51.0	石橋 守
2.18	東京	フェブラリーS(GI)	ダ1600	11	1:36.0	武幸四郎
4.22	京都	アンタレスS(GIII)	ダ1800	3	1:50.8	武幸四郎
5.20	中京	東海テレビ杯東海S(GII)	ダ2300	1	2:26.8	武幸四郎
8.16	旭川	ブリーダーズゴールドC(JpnII)	ダ2300	競走除外		武幸四郎
9.17	札幌	エルムS(JpnIII)	ダ1700	1	1:43.3	池添謙一
11.24	東京	ジャパンカップダート(GI)	ダ2100	4	2:07.7	武幸四郎
12.29	大井	東京大賞典(JpnI)	ダ2000	3	2:04.9	武幸四郎
2008.1.27	京都	平安S(GIII)	ダ1800	2	1:51.0	武幸四郎
2.24	東京	フェブラリーS(GI)	ダ1600	8	1:37.0	武幸四郎
3.20	名古屋	名古屋大賞典(JpnIII)	ダ1900	1	2:00.6	武幸四郎
4.27	京都	アンタレスS(GIII)	ダ1800	14	1:52.5	武幸四郎
5.25	中京	東海テレビ杯東海S(GII)	ダ2300	10	2:24.5	藤田伸二
8.14	旭川	ブリーダーズゴールドC(JpnII)	ダ2300	1	2:31.3	藤田伸二
9.13	札幌	エルムS(JpnIII)	ダ1700	4	1:43.4	藤田伸二
11.3	園田	JBCクラシック(JpnI)	ダ1870	3	1:56.9	藤田伸二
12.7	阪神	ジャパンカップダート(GI)	ダ1800	2	1:49.2	藤田伸二
12.23	名古屋	名古屋グランプリ(JpnII)	ダ2500	2	2:46.3	藤田伸二
2009.3.25	名古屋	名古屋大賞典(JpnIII)	ダ1900	3	2:03.0	藤田伸二
4.26	京都	アンタレスS(GIII)	ダ1800	8	1:48.8	藤田伸二
5.24	中京	東海テレビ杯東海S(GII)	ダ2300	8	2:25.1	石橋 守
7.20	盛岡	マーキュリーC(JpnIII)	ダ2000	8	2:07.5	藤田伸二
11.3	名古屋	JBCクラシック(JpnI)	ダ1900	4	2:02.0	藤田伸二
12.6	阪神	ジャパンカップダート(GI)	ダ1800	7	1:51.1	藤田伸二
12.23	名古屋	名古屋グランプリ(JpnII)	ダ2500	4	2:44.8	藤田伸二

※レース名は当時の表記による